

第49回沖縄地方交通審議会船員部会 議事録

日 時 平成24年10月26日（金）14時00分

場 所 沖縄総合事務局 1F 「共用会議室」

出席者

公益委員	儀部委員、春田委員、
労働者委員	漢那委員、梅田委員、江川委員
使用者委員	伊禮委員、大城委員
事務局	宮本海事振興調整官、船舶船員課（伊良波、宮良、金城）

議事次第

○開会

○議題

1. 第48回船員部会の議事録承認について
2. 管内の雇用状況等について
3. 沖縄若年内航船員確保推進事業『体験学習』の報告について
4. 意見交換

○閉会

議事概要

事務局（金城）

それでは、定刻でございますので、会議を始めさせて頂きます。

本日は、公益委員2名、労働者委員3名、使用者委員2名、が出席されており、船員部会運営規則第9条の規定による定足数を満たしており、有効に成立していることをご報告いたします。

事務局（金城）

続きまして、配付資料の確認をさせて頂きます。

(配付資料の確認)

よろしいでしょうか。

それでは、儀部部会長代理、宜しくお願ひいたします。

儀部部会長代理

それでは、はじめに第48回船員部会の議事録の承認についてお諮りします。

お手元に配付されております議事録をご確認ください。

第48回船員部会議事録を原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

(異議なし)

儀部部会長代理

異議なしということで、承認されたものといたします。

続きまして、議題2の「管内の雇用状況等」について、事務局にご説明をお願いします。

事務局（宮良）

平成24年9月分の管内雇用等状況の概要について説明いたします。

1頁の「船員職業紹介実績等一覧表」をご覧下さい。

●求人状況について

新規求人数は2名でした。

前月も2名でしたので、同数です。

また、前年同月は1名でしたので、1名の増加です。

月間有効求人数は6名（商船等5名・漁船1名）でした。

前月も6名でしたので、同数です。

また、前年同月は5名でしたので、1名の増加です。

月末未済求人数は2名でした。

●求職状況について

新規求職数は6名（商船等6名・漁船0名）でした。

前月も6名でしたので、同数です。

前年同月は5名でしたので、1名の増加です。

月間有効求職数は24名（商船等22名・漁船2名）でした。

前月は26名でしたので、2名の減少、前年同月は22名でしたので、2名の増加となっています。

月末未済求職数は15名でした。

●成立状況について

9月の当局成立について説明します。

9月は、管内に2名、管外に1名の方の採用が決まりました。全て30代男性です。

管内には甲板員として曳船に1名、甲板員として漁業調査船に1名採用されました。管外には、甲板員としてタンカー船に1名採用されました。

●求人倍率について

9月の月間有効求人倍率は、0.25倍でした。

前月、前年同月ともに0.23倍でしたので、0.02ポイントの増加となっています。

●新規求職者の退職理由又は求職理由別内訳について

9月の新規求職者6名の内訳につきましてご説明します。

退職の理由としては、自己都合が4名となっています。

また、現在陸上勤務中で海上勤務に転職希望の方が2名います。

新規求職者が所属していた会社所在地につきましては、管内が5名、管外が1名となっています。

●失業等給付支給内訳について

基本手当の初回受給者は0名でした。

受給者実人員は8名、支給延べ件数も8件、基本手当支給金額は1,187,432円でした。

さらに再就職手当として3件、1,349,216円の支給がありましたので9月の総支給額は2,536,648円となっております。

以上でございます。

儀部部会長代理

ありがとうございました。

ただいまのご説明につきまして、何か質問等ございますでしょうか

儀部部会長代理

質問等がないようですので、

続きまして議題3. 沖縄若年内航船員確保推進事業『体験学習』の報告について事務局からお願いします。

事務局（金城）

私から報告させていただきます。お手元にあります「体験学習」報告資料をごらんください。去る、10月17日（水）に私ども沖縄総合事務局運輸部が事務局をしております、沖縄若年内航船員確保推進協議会の主催で、県内の船員教育機関である、沖縄水産高校への進路希望者増加を目的とした『体験学習』を実施しました。

対象者は、県内の中学生で教師または保護者の引率が必要として、募集しました。参加者の人数は那覇・浦添地区から生徒16名・引率者5名、南部地区からは生徒15名・引率者8名、合計44名に参加していただきました。

体験学習のスケジュールとしましては、沖縄水産高校視聴覚室に於いて伊良波船舶船員課長より開会の挨拶をいただき、次にDVDによる船員の業務紹介を見てもらいました。次に沖縄水産高校教諭による海洋技術科等の紹介と沖縄水産高校OB・在校生からの講話のあと、参加者との意見交換会を行いました。その後、参加者全員で大型バスに乗り糸満漁港付近にあります新糸満造船（株）の造船所構内の見学をバスの中から行い、次に糸満漁港に停泊しております実習船「海邦丸五世」の見学を行いました。見学終了後、船内の食堂にて沖縄水産高校川満校長より閉会の挨拶をいただき、体験学習を終了しました。

資料をめくっていただき、アンケートの集計結果をご覧ください。アンケートの問6に「体験学習の全体の内容はいかがでしたか？」という質問がありますが、「とても良かった」という回答を多くいただきましたので、全体の感触は良かったというふうにとらえております。また、アンケートの問7、問10から、講義の中でも「沖縄水産高校海洋技術科等の紹介」と「実習船の見学」は特に人気があったことがうかがえます。海洋技術科の紹介では、沖縄水産高校教諭四方先生より、船舶の種類や海技資格について、また、船員を目指すための進路先について参加者にわかりやすく説明をされていました。実習船の見学では、やはり普段目にすることができない船内の設備などを実際に見学することによって生徒たちはよりいっそう船員への興味を示しているように感じました。

当日は、あいにく台風接近のため天候が悪く造船所と実習船の見学ができるかどうかも直前までわからない状態で、細かいスケジュールの変更などもありましたが、新糸満造船（株）さん、海邦丸五世の乗組員の方々、沖縄水産高校さん、また、参加者の皆さんとの協力もありまして、無事、事故などなく終了することができました。

若年内航船員確保推進事業では、毎回記者に対して開催に関する資料の投げ込みを行っております。去年に引き続き今回の『体験学習』におきましても沖縄タイムスからの取材がありましたが、まだ新聞には掲載されていませんので、近日掲載されると思われます。

また、次回は『海事教室』を計画しております。小学校の高学年生を対象に旅客船の見学を行い、船員の業務を含む海事産業への理解醸成を図ります。日程などの詳細については現在調整中です。『海事教室』実施後は、船員部会でも報告いたします。

以上です。

儀部部会長代理

ありがとうございました。ただ今のご説明につきまして、何か質問等ございますでしょうか。

儀部部会長代理

質問等がないようですので、

それでは議題4. の意見交換に移りますが何かございますでしょうか。

春田委員

先ほどの体験学習や職場体験などに参加した中学生が将来船員を希望できるような教育を水産高校で受けることができるんですね。また、水産高校へ進学する可能性はありますか。

漢那委員

沖縄水産高校への進学を希望している中学生はいると思うのですが、以前にお話ししました、沖縄水産と南部工業の統合の問題があります。船員を目指すのであれば、海洋技術科へ進学するのですが、その海洋技術科を水産科へ変えるという話がありまして、我々海員組合では9月25日に県知事と県教育長と県議会議長へ統合反対の陳情書を送っています。その後の県議会では反対意見が可決されたということで葉書が届いていました。12月の県議会で引き続き反対意見が可決されたとしても県教育委員会はそのまま強行的に統合計画を進めてくるのではないかと予想されます。

春田委員

体験学習の報告資料を見ていますと沖縄水産高校の設備はとても良いように見えます。設備にお金がかかっているので駄目だということではなくて、海事産業の発展のために必要だと思うので統合してしまうのはもったいないですね。

漢那委員

海洋技術科には、船長コース・機関長コースがあります。海洋技術科を卒業すると、5級の筆記試験が免除になります。ところが、海洋技術科が水産科に変更してしまい授業内容などの変更がありますと、筆記試験の免除を得られなくなるおそれがあります。海技免状の取得が困難になり船員への道が途絶えてしまったら、沖縄県で海技士を養成する学校がなくなるということを意味しており、そういうことを心配し、統合反対の声をあげています。反対といっても我々としては、海洋技術科をそのまま残していただければ良いという話もしています。

梅田委員

統合した場合に水産科から専攻科への進学はできるのですか。

漢那委員

専攻科への進学はできます。普通高校からの進学もできます。

伊禮委員

水産科に変更された場合は、卒業時に取得できた5級の筆記免除がなくなるおそれがあるという話でしたが、専攻科でも同様に卒業時に3級の筆記免除が得られると記憶していますが、仮にそれも全部なくなってしまった場合に筆記試験から口述試験まで全て受験した場合に海技免状の取得者が減るのではないかですか。

漢那委員

減ると思われます。実質、海洋技術科がなくなることは船員養成学校がなくなるということです。10年後には離島航路の船員がいなくなることも考えられます。

伊禮委員

離島からも反対の意見を募って、沖縄県に提出しないことには、大きな問題として捉えても

らえないので、離島航路の船舶職員がいなくなれば船は止まってしまう。

梅田委員

そうなると県外から海技免状を持った船員に来てもらわないと船が止まってしまうんですね。

伊禮委員

今でも県外から船員を集めて運航している船もあります。

漢那委員

現在、統合反対ということで1万人余りの署名を集めて12月の県議会の前にもう一度陳情を行う計画をしているところです。

儀部部会長代理

この署名はどういうところから集めているのですか。

漢那委員

沖縄水産高校のOB や鹿児島の海事産業関係者の方々にもお願いしています。

伊禮委員

我々漁業関係者も署名を行いました。

梅田委員

今後の統合計画はどのような動きになっているのですか。

漢那委員

県立高等学校編成整備計画というものがありまして、沖縄県が今後10年間で高等学校の編成整備をこの計画に沿って実行していくものです。この計画が今年作成され、この中に沖縄水産高校と南部工業高校の統合が組込まれています。

12月に予算についての議会が行われる予定であり、沖縄水産高校の敷地内に新しい校舎を建てるための予算も盛り込まれていると聞いています。この予算案が通ってしまうと新しい校舎の着工をしていくのではないかと思われます。計画の中ではまず校舎を建てて、それから進めていくという流れになっています。

儀部部会長代理

統合問題については、今回の体験学習に参加された中学生や保護者の方はご存じでしょうか。

事務局（金城）

おそらく、わからないと思われます。

春田委員

話を聞いて思ったのですが、署名を集めて大きな力で反対運動をすることもいいのですが、例えば議員の方で県内の船員の育成が重要だということを理解できる方へ話をもっていき働き

かけてみてはどうかと思います。一般的に反対というよりも重大なこれからの産業構造の転換の問題、昔沖縄が米軍統治下で医者が県内で育成できず非常に苦労したという話がありますよね。その話と同じで沖縄県内で必要な人材が育たないというのは非常に大きな問題だと思います。仮に船員が不足して県外から募集した場合は、今以上に人件費が高くなることも考えられると思います。

漢那委員

県議会議員の方々にも色々相談して協力してもらっています。県議会では反対の意見が可決されているのですが、それでも県教育委員会は「県議会で可決されても組織が別なため関係ない」という理由で計画を進めるつもりです。

儀部部会長代理

まさに沖縄水産高校を目指そうとしている中学生やその保護者も統合についてわからないなかで海事産業関係者が署名を集めるなどの反対運動をしている状況ですね。私自身この問題は非常に重要であると捉えていて、機会があるといろんな人に話をしているんですけど、知っている人がいないんですよ。海事関係者以外にも広げていく必要だと思います。

漢那委員

10月に全日本海員組合の全国大会がありまして、九州関門地方のほうから統合問題についても加味した決議案を出しています。それを文部科学大臣へ要請文書として提出していく考え方で、現在、本部と連携をとって取組んでいます。県内では反対運動を行い、中央からは県教育委員会へ話しをしてもらえるよう組織として取組んでいます。

春田委員

もし統合されたとしても、人材確保がしっかりできるのかが重要だと思います。

漢那委員

漁業関係においては、日本人船員が少なくなっており、インドネシアの船員でまかなっているような状況です。沖縄水産高校の生徒へも漁船のアピールが必要だと思います。

伊禮委員

県教育委員会は、船舶を運航させるために海技免状を持った職員が不可欠ということをしっかり認識しているのか、その船舶職員をどうやって確保するのかということを理解しているんですか。

漢那委員

認識不足もあると思います。統合して海技免状の取得が困難になるということは、なんとか阻止しないといけないです。沖縄には44の離島があります。長崎に次いで日本では二番目に離島が多い県なのです。それなのに船員不足の重大さを理解していない。海技免状についても乗船履歴がなければ口述試験も受験できない。筆記試験だけで取得できるものではないということを知らないと思います。

儀部部会長代理

そのほかに何かございますでしょうか。なければ事務局から連絡がありますのでお願ひします。

事務局（金城）

次の船員部会は11月22日（木）

場所と時間は本日と同じ 1F 共用会議室で 14:00～ 開催いたします。

以上です。

儀部部会長代理

それでは本日の部会はこれで終了します。

(配付資料)

1. 第48回船員部会の議事録（案）
2. 管内職業紹介実績等一覧表（平成24年9月分）
3. 『体験学習』報告資料